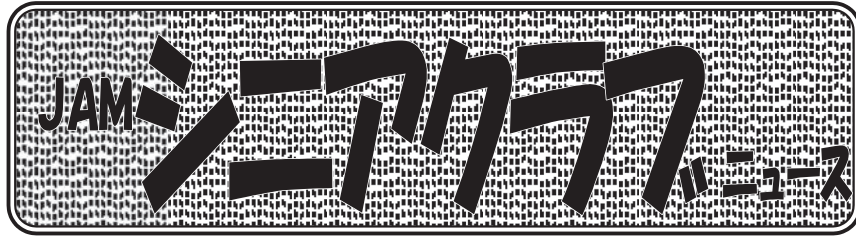


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第118号

発行日 2017年6月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

JAMシニアクラブ
第2回幹事会開催

活動方針・シニア活動中間答申討議 シニア共済85歳までの加入が実現へ

5月23～24日にかけて、シニア第2回幹事会を岐阜市「ホテル・パーク」で開催した。幹事会では9月の定期総会に向けた2018年度活動方針原案と政策制度方針、シニア活動検討委員会中間答申等について討議した。また、JAM共済の椎木グループ長からシニア共済への加入制度改定に関するPTJ検討結果の特別報告がされた。

第2回幹事会は2年 東海の協力により岐阜
に1度、地方で開催す 市内での開催が実現し
ることから今回は岐阜 した。大山会長が座長と
シニアクラブ、JAM して幹事会の議事を進 懇談会や退職者連合主

権の院内集会・国会傍聴行動・駅頭街宣行動に積極的に活動してきたことを報告し、後退する社会保障問題にJAM、退職者連合とともに取り組んでいく意向を示した。また、JAMを代表して川野副書記長は春闘中間総括にふれ「300人未満単組の賃金改善額が300人以上・大手のそれを2年連続して上回った」と報告。そのうえ

で労働関連法制では過労死ライン、青天井の制度にふたをすることができたが実効性のあるものにするのが大事。労働者の観点から今後主張していくと強調した。JAM東海高田委員長からは歓迎の挨拶がされた。特別報告として「シニア共済の制度改定案」の報告がされた。制度改定のポイント

(仮称)を新設し、現行の総合タイプと入院タイプから加入口数と掛金はそのままに、満80歳の7月1日から自動継続する改正で、共済加入と保障年齢の85歳までの引き上げを実現することを柱に、病気の入院の共済金支払い要件を総合・入院重視タイプともに「1泊2日以上」の入院の初日から「給付」に揃える緩和がある一方、診断書の準備や認定、健康告知にかかる負担軽減から総合タイプの障害共済金を廃止し、障害第1級共済金を入院重視タイプと同様の重度障害共済金に拡大すること、ハート・個人共済加入者のみが加入できる移行共済とする見直しが含まれている。機関手続きや周知などを経て、新制度の施行は2018年7月となる。

現役を卒業して13年経つと、そろそろ別世界のことも気にかかるが、やはり現実を無視するわけにもいかない。そしてその中心は政治であり、政治家である。一強多弱と言われて久しいし、サミットのたびに日本の総理の顔が変わっていたが、今では外国の首脳の顔ぶれの変化が激しい。自爆テロが横行し、北からはミサイルが飛んでくる。国内では人口が減少に転じ、わが秋田県においては、4月

主張



この状況の中で、民進党は？

期待が大きかった分、失望感も大きく、未だにその後遺症が残っているのだと思う。その後の自民党の大勝が続いているが、これは自民党が強いのうより、他の政党が頼りない結果であることを、多くの国民が理解している

国民生活に不満を持つ人も多い。これだけ非正規従業員を増やしてきた、労働組合に不満を持つ人も多い。しかし不満だけでは解決しない。今こそ働く人々の結集が求められているのではないか。

不満だけでは解決しない 求められる働く者の結集を

秋田シニアクラブ代表幹事 松江 四郎

長年、縁があつてそういう世界に携わってきた自分にとって、最近の状況は忸怩たる思いである。今の

また、役員選考委員会中間報告、シニア活動検討委員会中間答申を承認。政策制度及び活動方針は幹事会での指摘内容を加筆修正し7月の幹事会で確認することとした。

東京 江戸情緒満載の「川越」

散策と豪華な食事に満足

小川 秀樹通信員



今回で第17回となるJAM東京シニアクラブ「東京・街歩き」は、4月25日(火)江戸情緒満載の小江戸「川越」の散策を企画した。午前10時、西武新宿線の終点になる「本川越駅」に集合し晴天に恵まれ52人が参加した。

最初の散策ポイント「喜多院」。奈良時代までさかのぼるといふ古刹で、江戸城から移築したという「家光誕生の間」、「春日局の間」や、有名になっている「五百羅漢」を拝

観。その後のんびりと20分ほど歩いて「川越市立博物館」へ。川越の歴史に関する資料が展示されていて、案内の方の説明もわかりやすく、日を改めてもう一度訪ねてみたいとの声も。

川越見物のメインコースとなっている「菓子屋横丁」、「時の鐘」、そして約20棟の蔵が軒を連ねる「蔵造りの町並み」を自由にみてまわり、最後の観光ポイントとなる「蓮馨寺(れんけいじ)」に集合し

て、散策は無事終了した。

昼食はやや遅くなったが、120年の歴史を持つていたという酒蔵を改造した「小江戸蔵里(くらり)」という産業観光館にある「まかない処・八州亭」で、古家会長の挨拶に続いて乾杯。のんびりしながらも良く歩いたので、喉越しのビールも美味しく、豪華な食事を囲んで話が弾んだ。午後3時、次回の「街歩き」での再会を誓い合いながら解散した。

岐阜 高田さんが念願の優勝を獲得

天候に恵まれ29人が交流

傍島 征夫通信員



第10回岐阜シニアクラブ「ゴルフ大会」を5月18日(木)、関ヶ原ゴルフ場で開催し、参加者29人が競技を通して交流を深めた。

会長挨拶後、担当者

(岩田)よりルール説明がされた後スタート。当日は、5月晴れに恵まれ、野や山にツツシが満開に咲き誇る中、緑の芝を敷き詰めた会場で6チームがプレー。

プレーが始まると、真剣な眼差しをホールポストに向け、2打目で早くも入りの、ガッツポーズを見せる方や思わぬところへボールが飛び、ペナルティーとしてしま、苦笑いをする方など様々。和気藹々とリラックスしながら笑顔

を振り舞き楽しんでおられるのが印象であった。競技終了後に成績発表。丸順友の会の高田邦夫様が優勝、準優勝に同じく友の会の安田博光様が入賞され大歓声が湧いた。

優勝した高田邦夫様はこの日のために、週3回練習してきたお陰でやっと念願がかなったと、喜びの声を聞かせて頂くことが出来た。

反省会の時には、久しぶりに仲間とお会い出来たせいか、近況の話や次回予定となっているボウリング大会への意気込の話題に盛り上がりませ、天候にも恵まれ親睦と交流を深め合い1日を楽しく過ごすことが出来た。

京都 山本紘史さんが優勝

元気に80歳以上の参加者13人

伊藤 忠男通信員



恒例となったJAM京都シニアクラブのグラウンドゴルフ大会を5月24日(水)、長岡京市のグラウンドにて開

催、55人の参加者を集め、午前、午後に分けて32ホールの熱戦を繰り広げた。村田機械株式会社のご厚意で毎年グラウンドをお借りしているが、今年はグラウンドの凹凸が整地され草も刈っていただき気持ちよくプレイする事ができた。

優勝はトータル70のスコアで元島津の山本紘史さん(73歳)が獲得。山本さんは居住する市で一番のメンバー数を抱えるグラウンドゴルフ同好会の代表を務めるほどの愛好家、週3回〜4回のラウンドをこなす実力を発揮された。また80歳以上の参加者が13人もおられ、この日の最高齢85歳の元日本電池の川勝敏雄さんが80のスコアで3位になるなど、「高齢者という概念がいったい何歳からなのか」という議論がうなずけるような活躍をされた。リタイヤ後の長

い人生に、生き甲斐のほんの少しでも提供できようこれからも活動を活性化したい。

九州 今年度の現退対話会議を開く

地協での活動などを要請

森峰 茂樹通信員

JAM九州・山口は5月13日、福岡市の日本タンクステン本社で今年度の現退対話会議を開き、双方から25人が参加した。

先ず、現役の藤吉執行委員長、シニアクラブ松井会長が挨拶後、

出席者が自己紹介を行った。

報告事項ではシニア会員数などの現況や予算、活動を紹介した。次にJAM九州・山口が本部分針を受け、シニアクラブの組織拡大や活動のサポートを目

的に7地協に呼びかけた組合役員退職者との交流会実施状況が報告され、実施または予定は福岡、筑豊、山口の3地協、予定なしが4地協に及ぶなど課題を残している。

シニアから要望として二点を示し協力を求めた。一つは会員が皆無の佐賀地協選出の執行委員から該当単組に

伝えるとの約束が示された。二つは地協毎の現退交流を定例化する。その際はシニア幹事の参加と、地協でのシニア活動について協議するよう求めた。現退交流の予定なしとする4地協の動向に注目したい。近くの居酒屋での交流会では交歓の場を大いに広め、現退対話会議を終えた。